

先輩教師からの提言（先輩教師と語る）

授業参観と授業研究

ロングホームルームの指導

昨年に引き続き本年度も、講義や講演ばかりでなく、実践的な研修とするため、会場を東北の各高校に移し、実際の授業を参観し、会場校の教員も加わって授業研究を行った。これは非常に効果的であった。また、先輩教員と後輩教員との心の交流も図られ人間的なふれあいの面でもよかったと思う。

12 県立学校教職経験者研修会

① 目的

県立学校の教職5年経験の教員に対し、学校における学習指導、生徒指導並びに教職員の服務、勤務等について具体的な研修を行い、その資質の向上を図る。

② 主催

福島県教育委員会

③ 期日、会場

昭和52年7月25日(月)～7月30日(土)

2班に分けて実施 福島県教育センター

④ 対象

県立学校教員として新規に採用されてから5年経過の教員（昭和47年度内に新規採用となった教員）全員

⑤ 研修内容

ア 講演

「現代におけるものの考え方」

宮城教育大学教授 村瀬 隆二

イ 議義

「教育の専門性について」

高等学校教育課長 高橋 幸一

「生徒指導における懲戒について」

高等学校教育課 主幹 新妻 光信

「教育課程の編成と展開」

主任指導主事 小松原 格

「学校事故と教員の責任」

主任管理主事 金沢 英夫

「授業の改善」

指導主事 吉田 弥

「進路指導の課題」

指導主事 鈴木 悦郎

「教育評価について」

指導主事 山川 進一

「生徒指導の諸問題」

指導主事 佐川 六郎

ウ 研究協議

学級経営、教育相談

エ 分科会

各教科ごとに学習指導上の諸問題について

13 県立学校教務主任会議

① 目的

教務にかかわる重要課題について研究協議等を行い、その資質の向上を図るとともに適正な教務の運営を期する。

② 主催 福島県教育委員会

③ 期 日 11月24日(木)～11月25日(金)

④ 会 場 福島県教育センター

⑤ 参加者 県立学校教務主任 107名

⑥ 内容

ア 諸連絡並びに説明

イ 質疑応答

ウ 研究協議分科会

- 校内研修の組織と運営を効果的にするには、どのようにすればよいか。
- 教育課程の編成と実施にあたって、どのような検討改善を加えたらよいか。
- 各教科以外の教育活動（特に学校行事）の指導を充実するには、どのように計画し、実施したらよいか。
- 単位認定、学業不振生徒の指導等、教務にかかわる実務をどのように行ったらよいか。

4 内地留学

(1) 目的

公立小・中・養護学校教員に対し、学校教育に関する専門的知識並びに技能を習得させ、本県教育の推進に貢献できる者を養成する。

(2) 研修機関 東京教育大学

(3) 研修期間・研修生

ア 前期 昭和52年4月1日～昭和52年9月30日

相馬郡鹿島町立上真野中学校教諭 安良 紀 男

いわき市勿来第一中学校教諭 蛭田 俊 秀

東白川郡塙町立塙中学校教諭 和知 賢 示

イ 後期 昭和52年10月1日～昭和53年3月31日

郡山市立安積第二小学校教諭 遠藤 久 夫

会津若松市立謹教小学校教諭 長嶺 寿 夫

二本松市立二本松第二中学校教諭 伊東 博

(4) 研修内容 教育相談

5 教職員研究奨励

(1) 公立小・中・養護学校教職員から教育実践に関する研究論文を募集し、教職員の自主的な研究を推奨することによって、研修意欲の高揚や専門性の向上に資し、もって本県教育の振興を図る。

(2) 主催 福島県教育委員会

(3) 応募資格 公立小・中・養護学校教員

(4) 応募方法

① 研究論文と実践記録とする。

② 学校・学級経営、学習指導、生徒指導、養護教育、へき地教育等について、日常実践研究した内容とする。

(5) 応募数

研究論文 72編

実践記録 10編

(6) 審査員

郡山女子大学短期大学部教授

長谷川 寿 郎

学校法人福島工業高等学校長

栗原 喜 蔵

福島大学教育学部教授

蜂谷 剛

福島大学教育学部教授

大沢 貞一郎